

平成24年12月

森裕美 学位論文審査要旨

主 査 梅 北 善 久
副主査 山 元 修
同 林 一 彦

主論文

Association of Merkel cell polyomavirus infection with clinicopathological differences in Merkel cell carcinoma

(メルケル細胞ポリオーマウイルス感染の有無はメルケル細胞癌の臨床病理学的相違と相関する)

(著者：森（檜垣）裕美、桑本聡史、岩崎健、加藤雅子、村上一郎、長田佳子、佐野仁志、堀江靖、吉田雄一、山元修、足立香織、難波栄二、林一彦)

平成24年 Human Pathology 43巻 2282頁～2291頁

参考論文

1. Association of Merkel cell polyomavirus infection with morphologic differences in Merkel cell carcinoma

(メルケル細胞ポリオーマウイルス感染の有無はメルケル細胞癌の形態学的相違と相関する)

(著者：桑本聡史、檜垣裕美、金井亨輔、岩崎健、佐野仁志、長田佳子、加藤郁、加藤雅子、村上一郎、堀江靖、山元修、林一彦)

平成23年 Human Pathology 42巻 632頁～640頁

審査結果の要旨

本研究はメルケル細胞癌の組織を用いて臨床的特徴・予後、細胞周期関連タンパク質の免疫染色、*p14ARF*遺伝子プロモーター領域の高メチレーションの有無、*TP53*がん抑制遺伝子の変異とメルケル細胞ポリオーマウイルス (MCPyV) 感染との相関について検討したものである。その結果、MCPyV陽性例と陰性例の間には、予後、細胞周期関連タンパク質のRBおよびp53の免疫染色での発現、*TP53*がん抑制遺伝子のnon-UV signature mutationの頻度について有意な相違があることが示された。本論文の内容は、メルケル細胞癌のMCPyV陽性群と陰性群間の臨床病理学的、生物学的な相違を明らかにし、これらが異なる発癌機序で腫瘍化することを示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。